



たいじゅ もり
大樹の森

7月号



<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/fudomaru/>



「違い」を知る 認める そして「共に」

校長 山下 謙一郎

あっという間に令和5年度も3か月が過ぎ、子どもたちも学校生活にすっかり慣れてきました。暑さが厳しい日でも、元気な子どもたちの「おはようございます！」の声を聞くと、私たち教職員にとっても大きな励みになります。最高のエネルギーになりますね。

さて、不動丸小学校にいと、この学校生活が当たり前のように感じますが、少し世界の小学校に目をやると…ずいぶん様子が違うことがあります。3つの国を見てみましょう。

昨年、サッカーのワールドカップが開催された中東の国「カタール」。この国の小学校は日曜日からは始まって木曜日に終わるのだそうです。また、朝は7時から始まるのだとか。早起きが辛い子には大変ですね。そもそもいったい何時に起きているのでしょうか？

次に、ヨーロッパの国「スペイン」。この国は昼食を大切に作る国なので、小学校でも昼休みは2時間あります。時間をかけてゆっくり食べるので、これだけの時間が必要なのですね。楽しそうですが、では、学校はいったい何時に終わるのでしょうか？

最後に、アフリカの国「ブルキナファソ」。この国では、1学年にどんなに人数がいても1クラスのみが普通なのだとか。つまり1クラス90人ということもあるのですが、何人いても先生は1人。それでも、子どもたちは学校に行けることを楽しみにしているのだそうです。

「いいなあ」と思う国もあれば、「たいへんそう」と思う国もあることでしょう。でも、その国で暮らしている小学生からしてみれば、それが「当たり前」なのです。大事なことは、まず「違い」を知ること。そして、その「違い」を認めてあげることです。

これは、身近なお友達のことにも当てはまります。まったく同じ考え、同じ行動、同じ容姿をしている人は一人もいません。「違い」は「当たり前」であり、それが個性であって、「よさ」でもあります。一方で「違い」を認めた上で、必要なことは合わせていくことも集団生活では大切です。先生たちは、日々子どもたち一人ひとりに寄り添いながら、クラスという集団も高めていきます。これからも不動丸小学校約650名の「個」を大切にしながら、「大樹の森」という大きな森を育てていけるようにがんばっていきます。